

太宰府の文化財

430

「今川了俊書状」

太宰府市内には現在111件の指定文化財がありますが、その中でも古文書は2件しかありません。今回ご紹介するのはそのうちの一つである、市指定文化財今川了俊書状です。

今川了俊(貞世)は南北朝時代、室町幕府三代將軍足利義満の命を受け九州探題に任命され、当時隆盛を

誇っていた懐良親王率いる南朝方の征西府と戦い、九州における室町幕府支配を進めた人物です。了俊は中国地方の国人を動員するなど周到な準備を行って九州に入り、応安5(1372)年に征西府が掌握する太宰府を制圧します。

その後、了俊は幕府支配拡大のため九州各国の守護職を受け持ち征

西府勢力を追い詰めていきますが、南北朝合一の後、応永2(1395)年に九州探題を解任され、京に戻っていきます。了俊は武将であると同時に優れた歌人としての一面も持つており、政治的・経済的・文化的に天満宮安楽寺(現在の太宰府天満宮)と深い関わりをもっていました。

この書状は今川了俊が家臣の齋藤兵庫丞に宛てたものです。安楽寺に寄進された筑後国三瀨庄の高三瀨(現在の久留米市三瀨町)と藤吉村(久留米市大善寺町)が、大友氏によって押妨(所領を不法に占拠したり乱暴すること)されているため、それをやめさせるよう、同じく了俊家臣の三須雅楽入道へ命じたことを伝える内容になっています。年代ははっきり分かっていませんが、関連する文書から明德2(1391)年の可能性が挙げられています。

土地の保護を求めました。この書状もそうした事案の一つだとみることができまます。また、この書状には、問題の土地が足利尊氏から寄進されたものであること、安楽寺の寺務を勤める大鳥居氏代々の僧と足利將軍との関係は特別であることが記されており、当時の安楽寺と幕府との結びつきをうかがわせる内容となっています。かつて足利尊氏は再起を目指し九州に下向した折に太宰府の「原山」に1カ月滞在したことが知られており、有力寺社である安楽寺とも関わりがあったと思われる。

この文書は太宰府の南北朝時代について知る上で貴重な史料であるとして、平成25年9月25日に市指定文化財となりました。保存の関係上、貴重な南北朝時代の書状をなかなか見ていただく機会がありませんが、複製品を毎年文化ふれあい館で開催している「まるごと太宰府歴史展」で展示しています。今から600年以上前の筆跡、ぜひご覧になってください。



今川了俊書状

天満宮安楽寺新御寄進之地、筑後国三瀨庄内高三瀨井式拾町并藤吉村松茸丸跡陸拾貳町事、令混乱惣庄、大友方押妨候、等持寺殿御奉寄之條、明白候歟、大鳥居信高法印已下譜代之御師檀、異于他候之上者、念速被申沙汰、可被專御願候歟、仍三須入道方遣吹拳候、内々可被得其意候、恐々謹言

二月廿五日 了俊(花押)

齋藤兵庫丞殿

翻刻文(句読点は筆者による)

う、同じく了俊家臣の三須雅楽入道へ命じたことを伝える内容になっています。年代ははっきり分かっていませんが、関連する文書から明德2(1391)年の可能性が挙げられています。

当時、安楽寺をはじめ、多くの神社は各地に土地を持っていましたが、他勢力によって不当に占拠されることがありました。侵略された神社は、幕府やその関係者に訴え

文化財課

木村純也

